

平成25年度当初予算 施策 取組概要

342 観光産業の振興

(主担当部局：雇用経済部)

- 34201 式年遷宮の好機を生かした国内誘客戦略
(雇用経済部)
- 34202 三重県を訪れる海外誘客戦略
(雇用経済部)
- 34203 来訪を促進する観光の基盤づくり
(雇用経済部)

県民の皆さんとめざす姿

県民の皆さん、市町、観光事業者および観光関係団体等との連携により、観光振興の取組が進み、国内外からの誘客が促進されるとともに、県内地域において魅力ある観光地が形成され、観光産業が本県の経済をけん引する産業の一つとして確立され、持続的に発展しています。

平成27年度末での到達目標

式年遷宮により全国から本県に注目が集まる絶好の機会を生かした国内外に対する観光宣伝活動の強化、県内での周遊性・滞在性の向上、観光人材の育成等、観光産業の基盤強化を進めるなどの取組が展開され、本県の認知度が高まり来訪者が増加し、観光産業の活性化が図られています。

県民指標				
目標項目	23年度 現状値	24年度 目標値 実績値	25年度 目標値 実績値	27年度 目標値 実績値
観光消費額の伸び率	—	116	121	127
	100	—	—	—
目標項目の説明				
【目標項目】 観光旅行者が県内において支出した観光消費額（交通費、宿泊費、土産品費、その他の費用）の平成23年を100とした場合の伸び率				

活動指標					
基本事業	目標項目	24年度 目標値	24年度 実績値	25年度 目標値	27年度 目標値
34201 式年遷宮の好機を生かした国内誘客戦略	観光レクリエーション入込客数	3,650万人	—	3,800万人	4,000万人
34202 三重県を訪れる海外誘客戦略	県内の外国人延べ宿泊者数	100,000人	—	120,000人	150,000人
34203 来訪を促進する観光の基盤づくり	リピート意向率	82.0%	—	88.0%	100%

進捗状況（現状と課題）

- ・ 「三重県観光キャンペーン」を平成 25 年 4 月から実施するため、平成 24 年 10 月までに準備会を 4 回開催し、キャンペーンのコンセプトや実施に向けた体制づくりなどの案を作成しました。平成 24 年 10 月 11 日に協議会を立ち上げ、11 月 3 日にキックオフ大会を開催しました。事業計画作成や企業協賛などキャンペーンの準備を早急に進めるために、幹事会を開催しました。県全体でキャンペーンを盛り上げる機運を醸成していくために、平成 24 年 12 月から「三重県観光キャンペーン PR 隊」により PR 活動を実施しています。また、来訪者の周遊性・滞在性の向上、三重ファンやリピーターを増やしていくことが必要です。
- ・ 島根県、奈良県と、「ご遷宮」、「古事記」など共通テーマを活用し連携した観光 PR を始めました。相乗効果を得られるよう取り組んでいくことが課題です。
- ・ 平成 24 年 7 月に実施した台湾ミッションでは、「日台観光サミット」に参加し、平成 25 年度の開催を三重県に誘致しました。開催までの期間を「重点強化期間」に位置づけ、集中的に三重県を PR し、認知度を高めていくことが必要です。
- ・ 中部広域観光推進協議会や、「昇龍道」プロジェクト等広域連携による取組に参画し、連携したプロモーションを行っています。海外からの誘客を促進していくため、広域連携のさらなる有効活用が課題です。
- ・ 外国人観光客の利便性を向上するため、平成 24 年 1 月から外国人向け電話通訳サービスや観光事業者の外国語パンフレットの作成などを支援する「ことなび」を開始しました。観光事業者や旅行者への周知などが課題です。
- ・ 海女については平成 24 年 6 月に協議会が立ち上がり、留学生による体験事業や交流会・シンポジウムに取り組むとともに、韓国でのイベントに参加しました。忍者については、平成 24 年 8 月に協議会が設置され、ホームページやロゴマークの作成等に取り組んでいます。地域が一体となって主体的に事業を進めていくことが課題です。
- ・ ニューツーリズムとして、スポーツツーリズムやロケ地観光の支援に取り組み始めました。新たな取組を地域に定着化させることが課題です。
- ・ 首都圏等大都市圏での情報発信については、三重県営業本部と連携しながら女性向け雑誌等、メディアによる情報発信を進めています。
- ・ 三重県観光連盟による人材育成事業（平成 24 年 9～12 月）を支援するとともに、そのフォローアップとして「三重県 can-co 本気塾」事業（平成 25 年 1～2 月）を実施しました。育成した人材が地域において、その魅力の棚卸と再発見に取り組めるよう支援していくことが課題です。
- ・ 地域における観光産業の実態を把握するため、観光庁の調査に合わせ、観光による地域への経済効果等を調査します。この調査結果を地域経済活性化に効果的に活用していく必要があります。

平成 25 年度の取組方向

雇用経済部

- ・ 「三重県観光キャンペーン」、「海外からの誘客（台湾）」に注力し、県内の観光産業の振興につなげます。
- ・ 国内誘客については、官民一体となった協議会により、平成 25 年 4 月から 3 年間、「三重県観光キャンペーン」として情報発信や誘客促進、地域の受入体制の充実を進めます。課題である周遊性・滞在性を高めるために、県内全域で使用できる周遊パスポートの発行、みえ旅案内所等における観光案内機能の充実、県内を 5 地域（北勢、中南勢、伊勢志摩、伊賀、東紀州）に分け、地域の魅力を発掘し、発信する取組を推進します。また、営業本部と連携し、首都圏等大都市圏で三重の旬の情報を発信します。
- ・ 海外誘客については、「日台観光サミット」の開催をチャンスと捉え、「重点強化期間」を含めて台湾における観光 PR、誘客活動に集中的に取り組めます。
- ・ 中国については、日中関係の状況を注視しながら「昇龍道」プロジェクトなど広域連携による取組を中部広域観光推進協議会と一体となって進めていきます。
- ・ 外国人観光客の増加が予想されるため、観光案内所等窓口をはじめ多言語対応を充実します。
- ・ 海女、忍者を活用したモデル事業を促進し、国内外の情報発信の強化に取り組めます。
- ・ スポーツやロケ地観光など新たな分野との連携によるニューツーリズムを開拓し、地域への定着化を図るとともに、観光キャンペーンを通じて PR を行っています。
- ・ 地域で観光を牽引するキーパーソンの育成とネットワーク化により、観光資源の掘り起こしや観光地間の連携を促進します。
- ・ 観光統計データについては、地域と情報共有するとともに、データを分析し、事業構築に活用していきます。

主な事業

雇用経済部

●（一部新）三重県観光キャンペーン推進協議会負担金

【基本事業名：34201 式年遷宮の好機を生かした国内誘客戦略】

（第 7 款 商工費 第 1 項 商工業費 7 新産業振興費）

当初予算額：(24) 20,000 千円 → (25) 201,200 千円

事業概要：式年遷宮の好機を活かし、官民一体となった推進協議会により、三重県観光キャンペーンを実施します。公募により決定した愛称「実はそれ、ぜんぶ三重なんです！」を活用し、全国に三重の認知度を高める観光情報発信を行います。また、県内においては、周遊パスポートや 5 つの地域部会におけるイベント、おもてなしなどにより周遊性、滞在性の向上を図り、三重ファンやリピーターを増やします。島根県・奈良県等との連携を進めるとともに、首都圏営業拠点等と一体となり、大都市圏へ三重の魅力を情報発信します。

●国内誘客推進事業

【基本事業名：34201 式年遷宮の好機を生かした国内誘客戦略】

(第7款 商工費 第1項 商工業費 7 新産業振興費)

当初予算額：(24) 127,603千円 → (25) 65,453千円

事業概要：国内からの来訪を拡大し、県内での周遊性・滞在性を向上させるため、三重県観光連盟、伊勢志摩観光コンベンション機構、市町等と連携し、本県のPRに取り組むほか誘客活動を展開します。

●海外プロモーション推進事業【基本事業名：34202 三重県を訪れる海外誘客戦略】

(第7款 商工費 第1項 商工業費 7 新産業振興費)

当初予算額：(24) 40,019千円 → (25) 25,299千円

事業概要：ミッション派遣による商談会等の開催やフェイスブック・ツイッター等を活用した情報発信により、本県の認知度向上を図るとともに、多言語に対応した受入環境の向上や、国・他府県と連携した広域的取組により、外国人観光客を誘致します。

●世界に誇れる三重県観光モデル構築事業

【基本事業名：34203 来訪を促進する観光の基盤づくり】

(第7款 商工費 第1項 商工業費 7 新産業振興費)

当初予算額：(24) 5,000千円 → (25) 4,900千円

事業概要：本県が世界に誇る海女、忍者を活用し、地域と連携して国内外の情報発信の強化を行うなど、新しい三重県観光のモデルを構築します。